

お待たせしました。今年度第1号の音楽科通信「LINDENBAUM」です。
今回は、新任職員紹介と一年生ふれあい学習の感想をお届けします。

これから一年間どうぞよろしくお祈いします。それぞれの決意を胸に充実した一年にしていきましょう♪

♪今年度、お迎えした新しい先生方からメッセージをいただきました！

井田結貴乃先生 (ハープ)

皆さん、こんにちは！今年度から小諸高等学校の非常勤講師となりました、ハープの井田結貴乃と申します。私は高校、大学、研究科の8年間を桐朋学園で過ごしました。現在はソロやアンサンブル、オーケストラでの演奏や、音楽教室のハープ講師として活動をしています。

ご縁をいただきフランスのコンクールで審査員を務めた経験もあります。その時に感じた事は、音楽を楽しむことの大切さです。参加者の皆さんは緊張しながらも音楽を楽しみ、自分なりの表現をしてくださいました。それぞれの表現や個性に心を打たれた事を鮮明に覚えています。

音楽は様々な経験をすることによって、表現力が豊かになります。色々な挑戦や経験をして、音の引き出しをたくさん作って欲しいと思っています。皆さんが充実した高校生活を過ごせるようお手伝いのでしたら嬉しく思います！どうぞよろしくお祈いします。



高口かれん先生 (マリンバ)

みなさん、はじめまして！

この春より、小諸高校のマリンバの非常勤講師となりました、高口かれんと申します。

私は8歳よりマリンバを始め、国立音楽大学を卒業後、ベルギーへと留学し、打楽器やマリンバの音楽を勉強しました。

さまざまに環境が変わる中、思い通りにいかないことがあり挫折もしましたが、マリンバを演奏し、音楽と向き合う時間が、私の心の支えとなりました。

昨年より世界中で猛威をふるっているコロナウィルスは、みなさんの生活に大きな影響、大きな変化をあたえたことと思います。

こんなに不安定な世の中でも、音楽は人生に目標や彩りを与え、どんなに苦しい状況でも乗り越えていける強い精神力を養えると思っています。

私もみなさんとともに、この苦しい状況を乗り越えていけたらと思っています。

どうぞ宜しくお祈い致します。



寺島都志子先生 (チェロ)

この春から、オーケストラの授業を担当していますチェロ・寺島都志子です。小諸高校音楽科には、2015年まで17年間チェロ講師として勤め、そして今年6年ぶりに復帰しました。私が小諸高校に携わってきて一番感じる事は「なんて豊かな感性を持った生徒達だろう！」ということです。

入学した頃のまだあどけない生徒が、卒業の時に見せる自信に満ちた表情。今年卒業した生徒達はコロナ禍にありながら、自分達の為ではなく外に向けて発信することで、音楽する喜びを多くの人と共有できたと思います。

今年もまだコロナ禍で制限が続く日々ですが、この時代こそ音楽で繋がりましょう！その一端を担えるのこそ、小諸高校音楽科の皆さんです。高校生のエネルギーって素晴らしい。私もかつて高校生だった頃、音楽のことしか頭にはありませんでした。今はその高校生と、共に音楽できる喜びを噛みしめつつ励んでいきたいと思っています。よろしくお祈いします。



保科すみれ先生 (電子オルガン)

今年度より電子オルガンコースの講師となりました、保科すみれです。

私は幼少期より音楽教室でエレクトーンを学び、更に幅広く音楽を勉強するため音楽大学へ進学しました。大学ではソロはもちろん、他コースとのアンサンブルやコンチェルトの授業が数多くあり、様々な楽器の奏法や音色、表現について学びました。また、恩師である赤塚博美先生と学内外でオペラや合唱の伴奏をさせて頂いた事はとても勉強になり、視野が狭かった私の音楽人生を大きく変えてくれました。そして現在子供達に指導する立場になり、学生時代の経験が多く活かされていると感じています。

地元であるこの長野県で、フレッシュな皆さんと時間を共にできることをとても嬉しく思います。皆さんもこの小諸高校で、仲間と音楽を通じて学び合い、そして積極的に音楽で自分を表現してほしいと思います。

宮島優哉先生 (ユーフォニアム)

みなさんはじめまして。ユーフォニアムの宮島優哉と申します。4月から非常勤講師としてお世話になっています。小諸高校音楽科を16期生として卒業しました。伊那市出身なので、みなさんご存じのレガート音楽寮で3年間お世話になりました。

私は、中学校の吹奏楽部でユーフォニアムに出会い、中学3年生の夏になる前くらいに、音楽科の高校があることを知りました。その時に、音楽を生業に生きるという人生もあるのだなあとと思い音楽科への進学を決めました。私の音楽科へ入学した大きな目的が、東京藝大へ進学することでした。最初のレッスンで講師の先生に藝大に行きたいと言ったことをまだ覚えています。吹奏楽部にも入っていましたが、隙あらば受験に必要なエチュードやスケールを練習しました。思い返せば3年間一度も藝大受験を忘れた日はなかったかなと思います。それもあってか何とか藝大に進学することができました。割と気持ちの強さだけで生きてきた人生だったかなと感じています。

泥臭い生き方でお恥かしいですが、人生の舵を切るときはやっぱり自分がどうしたいかという強い気持ちが大切になってくると思います。音楽関係に関わらず、どんな方面でも仲間を応援して一緒に頑張ることができるのが音楽科のいいところです。私もそんなみなさんのお手伝いをさせて頂きます。見かけたら何でも話しかけてもらえると嬉しいです。一緒に頑張りましょう！どうぞよろしくお祈いします。





♪4月、桜の下でクラス写真を撮影しました。24名の1年生を迎え、音楽科総勢76名です！！



3年生

担任 滝沢裕基 副担任 小山暁香



2年生

担任 依田潤子 副担任 高砂佑介

1年生

担任 青木千佳 副担任 井出玲子



♪4月16・17日には、1年生初めての行事「ふれあい学習」が行われました。

感想を紹介します。

私がふれあい学習で学んだことは、自分一人だけではできない音楽をみんなで作った時の感動です。今まで一人で練習してきたことを他の楽器と合わせることは、決して簡単なことではありませんでした。それでも毎日諦めずに練習を積み重ねることで、演奏面はもちろん、人間関係も変わっていったように思います。合奏することは楽しいけど、個人練習がきちんと出来ていないと、よい演奏は生まれにくいということも学びました。そして何より、発表の際に、このメンバーで乗り越えられてよかったなあと、感謝をしながら演奏を楽しむことができ、改めて音楽が好きになりました。

二日目の弦楽セクションの際も同様に、自分一人ではないんだと思いつつ、一緒に演奏してくれた仲間に感謝することができました。そして、この二日間を通して、「音楽は人と人とを繋ぐ大事な存在」ということを、心に刻むことができました。

(1年)

二日間にわたるふれあい学習を過ごしての感想は、率直に言うと「本当に自分は音楽科の生徒になったのだな」です。ずっと憧れていた音楽科で、音楽に溢れる二日間を過ごせたことが何より嬉しかったからです。

グループやセクションの発表では、初めてクラスメイトが出す音を聴き、これから三年間を一緒に過ごす仲間として、とても頼もしいなと思うと同時に、お互いに高めあえるような関係になっていきたいと思いました。

そして、自分自身「音楽科に憧れている自分」ではなく、「音楽科の生徒」としての自分になり、一つ一つのことを向き合っていくたり、小さな目標や練習を大切にしていきたいと感じました。音楽科の生徒になったということを実感したからこそ、自分の限界を決めつけず、さらに先へ進められるようにしていきたいと思います。

(1年)

アンサンブル発表会の様子

